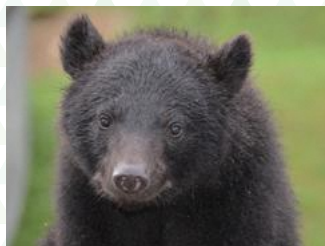


概要版

秋田県 生物多様性地域戦略 [2021-2030]

人と自然が共生する豊かでうるおいのある秋田県を目指す



令和3年3月



秋田県

生物多様性とは

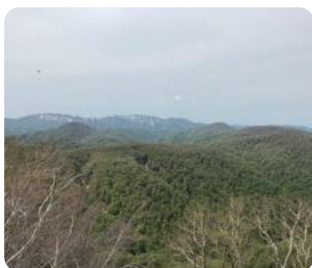
地球上には、森林、草地、湿原、河川、湖沼、海岸など様々な自然環境が存在し、こうした環境に適応して進化した約3,000万種とも推定される生物が食物連鎖などを通じて互いにつながり合い、バランスを保ちながら豊かな自然を形成してきました。この様々な生物たちの個性とつながりこそが「**生物多様性**」そのものです。

生物多様性の3つのレベル

生物多様性には「生態系」、「種」、「遺伝子」の3つのレベルの多様性があるとされています。これらの多様性が、長い進化の歴史の中で受け継がれた結果として、現在の生物多様性が維持されています。

1 生態系の多様性

本県には白神山地、八幡平、森吉山、鳥海山などの「森林」、寒風山に代表される「草地」、桑ノ木台や獅子ヶ鼻などの「湿原」、米代川、雄物川、子吉川の三大河川や十和田湖、田沢湖、八郎湖などの「河川・湖沼」、日本海沿岸の砂丘や岩礁地といった様々なタイプの自然が見られます。



白神山地（藤里町）



寒風山（男鹿市）



雄物川（大仙市）



田沢湖（仙北市）

2 種の多様性

本県には、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、クマゲラ、ゼニタナゴ、ヒメギフチョウなどの動物、天然秋田スギ、コマクサ、チョウセンキバナアツモリソウ、アキタブキなどの植物、天然マイタケといった菌類など様々な生物が生息・生育しています。



ニホンカモシカ

3 遺伝子の多様性

同じ種の中でも、形態、色彩、生態などの異なる個体が存在します。こうした、遺伝子レベルの違いがあることで、生物は環境の変化に適応し、種を存続することができます。例えば、有名な仙北市角館武家屋敷のシダレザクラには、同じサクラでも花のピンク色が濃いものと薄いものがあります。また、様々な花びらの形があるのも遺伝子レベルの多様性のためです。



濃いピンク色



薄いピンク色

生物多様性がもたらす恵み

生物多様性は、長い地球の歴史の中で多様な自然に適応した生物の進化によって形成された、かけがえのないものであり、それ自体に大きな価値があります。この生物多様性は私たちの暮らしに様々な恩恵を与え、生活をより豊かで安全なものとしてくれています。これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、4つに分類されています。



生物多様性に迫る4つの危機

私たちは、より良い暮らしを求めて、生産や経済活動の場を広げてきましたが、一方では開発行為による自然破壊、生物資源の過剰な採取・利用、化学物質による環境汚染など、人間の活動によって生態系が損なわれ、絶滅してしまった生物もいます。今後の私たちの行動によっては生態系の破壊が進み、生物多様性の低下による生態系サービスの劣化が危惧されます。この生物多様性の危機は4つに分類されています。

第1の危機	開発行為など人間が行う様々な活動が生物多様性に及ぼす影響
第2の危機	第1の危機とは逆に、自然に対する人間の働きかけが縮小することによる影響
第3の危機	外来種や不適切な農薬などの使用による生物相や生態系への影響
第4の危機	地球温暖化など地球環境の変化が生物多様性に与える影響

生物多様性に迫る4つの危機

生物多様性が低下してしまうと、私たちの暮らしはどうなるのでしょうか。食料や燃料など、私たちの生活に必要な素材が手に入らなくなったり、空気や水などがきれいな状態に保たれなくなること、今までと同じような生活が送れなくなるかもしれません。さらに、生物多様性により育まれてきた伝統や文化を次の世代に伝えられなくなる可能性もあります。

本県の生物多様性の特徴

本県は、三方を山に囲まれ、対馬暖流の影響を受けた湿潤な気候の下で豊かな自然環境が形成されています。その中で私たちは多様な生きものたちと共存し、本県特有の様々な文化を育んできました。



東北三大祭り
秋田竿燈まつり



絶滅の危険性が高い
クマゲラ



日本三大美林
天然秋田スギ



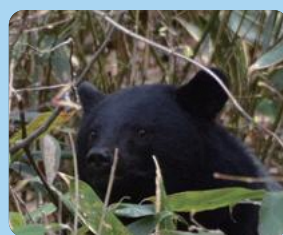
マタギ発祥の地
阿仁のマタギ
(写真: マタギ資料館)



クロマツ林
風の松原



世界遺産(自然遺産)
白神山地



分布域が拡大
ツキノワグマ



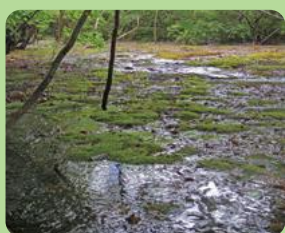
秋田県の県魚
ハタハタ



日本一深い湖
田沢湖



重要無形民俗文化財
男鹿のナマハゲ



鳥海マリモ群生地
獅子ケ鼻湿原



特別天然記念物
二ホンカモシカ



秋田県の郷土料理
きりたんぽ



秋田富士と呼ばれる
鳥海山



絶滅の危険性が高い
ゼニタナゴ



秋田県の伝統工芸品
樽細工



全国名水百選
元滝伏流水

生物多様性地域戦略とは

生物多様性の保全と持続可能な利用は、国が策定する生物多様性国家戦略のみで実現されるわけではなく、都道府県をはじめとする地方自治体が、それぞれの地域の特性に応じた地域戦略を策定し、地域の条件に合った取組を進めることで真に実現されるものです。この「**秋田県生物多様性地域戦略**」は、本県における生物多様性の課題を解決するため、関係組織と連携を図りながら、各種施策を効果的かつ効率的に推進するための指針などをまとめたものです。

本地域戦略の対象区域は、**秋田県全域**としますが、自然環境は河川の流域や山地などのように行政区域とは無関係な区域も含まれるので、秋田県域だけでは解決できない課題については、周辺の自治体や国の機関と連携を図りながら取り組みます。期間は「**2021年度（令和3年度）～2030年度（令和12年度）**」までとします。

本地域戦略は、**▷県民一人ひとりが生物多様性の重要性を認識するため、▷課題解決に向けて県民総ぐるみで取り組むため、▷本県の豊かな生物多様性を次世代につなぐために**大きな役割を果たします。

生物多様性地域戦略の基本理念と目標

基 本 理 念

人と自然が共生する豊かでうるおいのある秋田県を目指す

長 期 目 標

2050年度まで

生物多様性の維持・回復と持続可能な利用を通じて、本県の生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに、生態系サービスを将来にわたって享受できる、人と自然が共生する豊かでうるおいのある秋田県を実現します。

短 期 目 標

2030年度まで

長期目標を達成するために、5つの短期目標を掲げ、効果的かつ効率的な取組を実践します。

〈目標1〉 **多様な生態系の保全**

〈目標2〉 **野生動植物の保護**

〈目標3〉 **外来種への対応**

〈目標4〉 **生物多様性の主流化**

〈目標5〉 **地球温暖化防止と普及啓発**

本県の生物多様性における主な課題

本県には、海岸地帯から高山までの間に、様々な自然環境が存在し、独自の生態系を形成していますが、生物多様性に関しては多くの課題も発生しています。

松くい虫やナラ枯れ等の病虫害の発生



(左) 松くい虫被害の県内全域への拡大
(右) ナラ枯れ被害の更なる拡大

里地里山等の生態系機能の低下



(左) 里山林の手入れ不足による獣害リスクの増加
(右) 耕作放棄地の拡大による農地生態系の劣化

各種開発行為に伴う生態系への影響



(左) 各種整備事業に伴う生態系の変化
(右) 再生可能エネルギー施設等の増加

絶滅が危惧される生物種数の増加



(左) オオセッカ（県絶滅危惧IA類）
(右) トミコ属雄物型（県絶滅危惧IA類）

ニホンジカやイノシシによる農林業被害の拡大



(左) 水田に侵入したニホンジカ
(右) イノシシに荒らされた水田

ツキノワグマの人身事故や農作物被害の発生



(左) 対策事例：被害軽減のための知識の普及
(右) ツキノワグマによる農作物被害

オオクチバスなどの外来種や海外から持ち込まれた植物の野生化



(左) 釣り目的で持ち込まれたオオクチバス
(右) 緑化木用として持ち込まれたニセアカシア

生物多様性に関する県民意識の希薄化と知見を有する人材の不足



(左) 対策事例：森林の大切さを学ぶ植樹活動
(右) 対策事例：秋田県森の案内人による支援活動

生物多様性地域戦略の行動計画

1 各生態系及び生息地の保全

多様な生物と共存するためには、生態系に配慮した事業活動などによる生息地の保全が必要です。法令等に基づく保護地域を適切に管理するとともに、生態系に配慮した適切な事業を推進します。



保護地域の適切な管理



保護地域の巡視活動



生態系に配慮した事業



適切な環境影響評価の実施

2 野生動植物の適切な保護及び管理

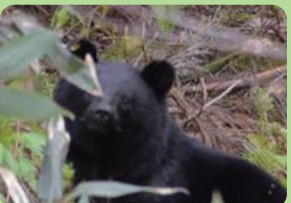
本県に生息する野生動植物の人為的な絶滅を回避するための取組が必要です。希少な野生動植物の保護活動や特定鳥獣管理計画等に基づく適切な保護管理対策を行います。



希少種の保護（クマタカ）



鳥獣保護区等の指定及び管理



野生鳥獣の保護・管理



県版レッドデータブックの活用

3 外来種対策

外来種は本来の生態系や生物相に悪影響を及ぼすだけでなく、農作物の食害や漁獲対象種の捕食など、私たちの生活にも様々な影響を及ぼします。外来種問題の理解を深めるための普及啓発活動や関係機関と連携した駆除活動を行います。



オオクチバスの駆除



植物（オオキンケイギク）



普及啓発活動



オオハンゴンソウの駆除

4 生物多様性の重要性の周知

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性が、様々な主体に広く認識され、それぞれの行動に反映されることを「生物多様性の主流化」と呼んでいます。この生物多様性の主流化を浸透させるための取組を行います。



県有施設の活用



モニタリング調査・研究



環境教育・環境学習



人材の確保・育成

5 地球温暖化対策

- ★県民総ぐるみによる地球温暖化防止対策の積極的な取組
- ★地球温暖化に対する意識の醸成
- ★再生可能エネルギーの導入の推進

6 生物多様性に関連するその他の取組

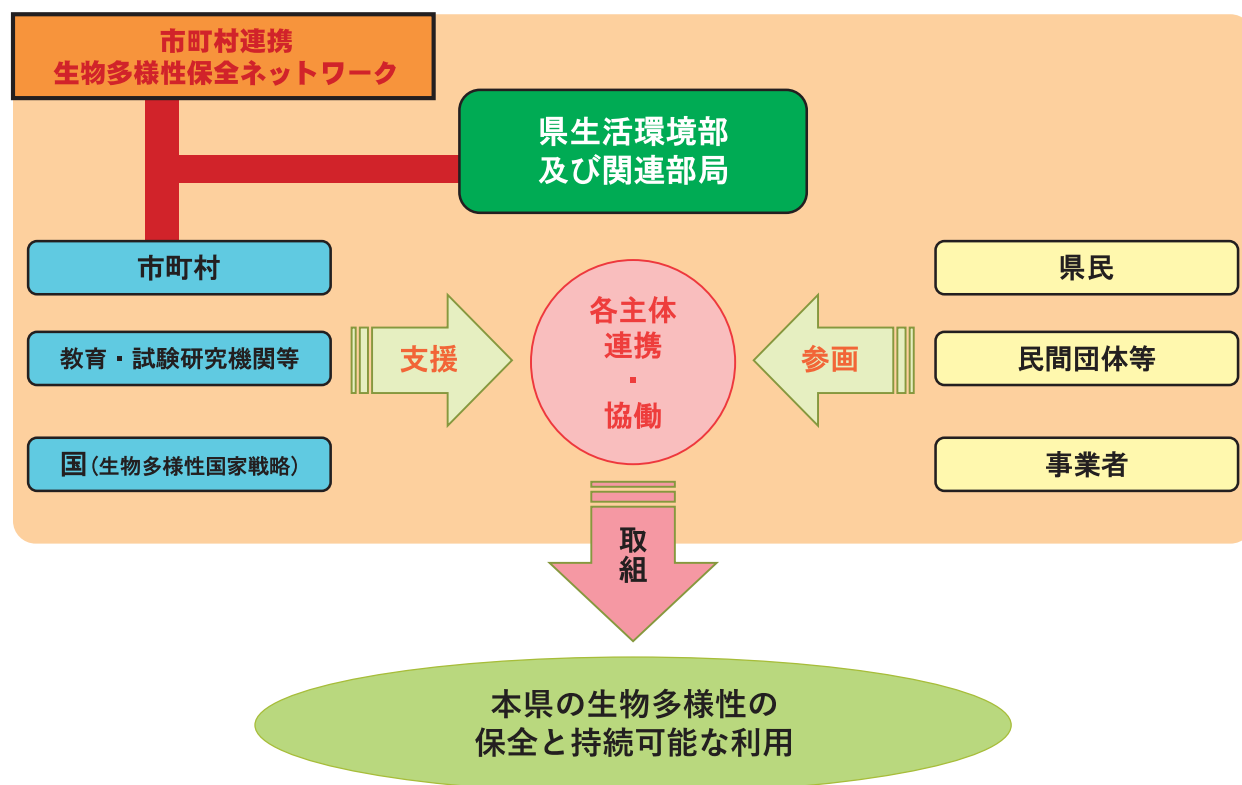
- ★循環型社会の形成に向けた取組
- ★水と緑の保全と創造に向けた取組
- ★海岸漂着物の発生抑制に向けた取組
- ★環境教育の推進に向けた取組

生物多様性地域戦略の推進体制

地域戦略の基本理念である「人と自然が共生する豊かでおいしいのある秋田県を目指す」ため、県がリーダーシップを発揮しながら、希少野生動植物の保護や森林の保全・再生など、実際に自然環境の保全に取り組んでいる地域や民間団体、事業者を支援するとともに、教育・試験研究機関、市町村等と連携・協働を図りながら各種施策を推進します。

また、地域の実情に応じた取組を効果的かつ効率的に推進していくため、「市町村連携生物多様性保全ネットワーク」を構築することにより、生物多様性に関する身近な課題等を抽出し、将来的には地域レベルでの取組につながるよう基盤づくりを進めます。

秋田県生物多様性地域戦略推進体制



秋田県 概要版
生物多様性
地域戦略
[2021-2030]

秋田県生活環境部自然保護課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

Shizenhogoka@pref.akita.lg.jp

TEL 018-860-1614

FAX 018-860-3835

※本編は県ホームページでご覧下さい。(https://www.pref.akita.lg.jp/)